

仕事の基軸は大阪 支店時代の原体験

中山智裕氏は兵庫県出身の52歳。東大法学部卒業後、1995年に日銀入行。高

知支店長や国際局審議役などを経て、2025年6月から現職。札幌支店での勤務は28年ぶり。以下、中山氏との一問一答。

◇ 出身は兵庫県です

ね。中山 姫路市で18歳まで過ごし、大学進学で上京しました。学生時代はラグビーサークルとアルバイトに明け暮れ、ほとんど勉強をしませんでした（笑）

——就職先としてなぜ日銀を選ばれたのでしょうか。中山 官庁から民間企業まで幅広く就職活動を行う中で、何らかの形で経済のインフラ機能を担う仕事を

したいなと思うようになりました。そのような仕事のできる組織の一つとして日銀があった訳ですが、監督・規制権限を行使して仕事をする官庁とは異なり、金融取引を通じて世の中の

日本銀行

札幌支店

中山智裕 支店長

半導体、DX・GXは地理面の
ハンディを超える可能性がある

日本銀行札幌支店長が6月に交代した。

「物価の安定」という日銀の大きな役割を果たすため、中山智裕支店長は「地元企業等から膝詰めで話を伺い、道内経済の実態を丁寧に把握したい」と力を込める。北海道で先端産業が発展する可能性にも言及する。



前田圭祐 〓ききて
MAEDA Keisuke

林直光〓撮影

インタビュー

た「日銀の仕事はイン・ザ・マーケットだ（市場の一員として政策・業務を遂行する）」という言葉に惹かれましたね。
入行後、95年12月から97年7月まで札幌支店で勤務しました。当時はバブルが

崩壊した後であり、当地でも、国内の他の地域と同様に、新しいビジネスやプロジェクトに挑戦するのがなかなか難しい環境であったと記憶しています。
——当時と比較して札幌の印象はいかがでしょう



企業と同じ立場や目線で仕事ができる点に面白さを感じました。当時、OB訪問で会った日銀行員から聞い

か。

中山 道内経済を取り巻く環境は当時とは大きく変わっています。まず、当地の金融システムは全体として安定性を維持しており、経済活動を資金面からサポートする機能をしっかりと発揮できる状況にあります。

また、そのような環境下で、実体経済面では、半導体、DX・GX、札幌中心部の再開発など、28年前には見られなかった新たなプロジェクトの機運が非常に盛り上がっています。

——札幌支店の後は、大阪支店で3年勤務しています。

中山 入行3年目から6年目まで大阪支店で経済調査に従事していました。日銀で仕事をする心構えというか基軸のようなものがある程度はつきりしたのは、この仕事に従事していた4年目辺りだったと思います。



当時は、大阪を中心に中小企業の景況・経営動向に関する調査を担当しており、「中小企業の町」として有名な東大阪の町工場などに定期的に通いヒアリングを行っていました。

ところが、98年の秋頃だったかと思いますが、いつものヒアリング先が工場や事務所を閉めて突然いなくなってしまうといった事態が立て続けに起こったのです。

いずれも、数日前には普通にアポイントを取れていた会社ばかりです。近所の人達に聞くと、いずれも金融機関から運転資金の更新を断られ、事業が立ち行かなくなったとのことでした。景気の下降局面で、金融

機関が返済不能に陥った経営不良先への融資をストップすること自体は、一般的にみられる対応です。

しかし、地元で比較的優良と言われていた会社が幾つと同時に倒れてしまう事態は異常としか言いようがなく、「不良債権問題の深刻度が一線を超えてしまい、金融機関のリスク許容度が構造的に大きく変化してしまったのではないか」といった趣旨のレポートを焦る気持ちで書いたことを記憶しています。

この出来事は金融機能が不安定化することで実体経済が受けるマイナスインプакトの大きさや怖さを身をもって知ったという意味で衝撃的な体験であり、「金融システムの健全性は絶対に維持されなければならぬ」といった信念めいたものが、その後の自身の仕事の基軸となったように思います。



較すると、北海道の夏は相対暑くなっており、地球温暖化の影響を如実に受けている印象があります。

こうした気候の変化は、食料生産など第一次産業などのあり方を変えていく可能性があります。

中山 前回の赴任時と比

これまで、個別の金融機関の破綻対応に複数関わってきたほか、日銀が金融機関の株式を買い取る施策など、金融システムの安定を確保するためのさまざまな取り組みの企画立案に携わってきました。その過程では難しい課題も多くありましたが、若い頃のこうした原体験がハードルを乗り越えていく原動力になってきたと感じています。

変化へのしなやかな適応を

——日銀は3カ月に1度、地域経済報告である「さくらレポート」を作成しています。道内の景気動向はいかがでしょうか。

中山 北海道の景気は、緩やかではあるが上向きの動きを維持しており、物価上昇の影響で一部に弱めの動きはあるものの、全体としてはコロナ禍で落ち込ん

だところからの回復傾向をたどっています。

とくに公共投資は北海道新幹線延伸工事などを背景に高水準で推移し、民間設備投資も旺盛です。

私どもの最新の調査では企業の今年度の投資計画が昨年度を1割程度上回っています。個人消費も底堅く推移しています。

——どの業界も人手不足が叫ばれて久しいです。

中山 道内経済の先行きのリスク要因として、人手不足が経済活動の拡大に制約として作用する可能性がある点には留意が必要ですが、潜在的な需要に供給が追い付かない可能性があるということです。

例えば、建設投資では再開発事業などの工期が遅れたり、案件そのものが中止になってしまいうことが考えられます。

また、観光業でも人手不足でホテルの稼働率を落と

くことが重要ではないでしょうか。

ハンディを超える可能性に挑戦

——北海道のハンディキヤップは、大消費地からの地理的な距離や加速度的な人口減少と指摘する声もあります。

中山 首都圏や関西圏といった大消費地から距離があるため、生産物の輸送コストがかさみ、市場競争力で不利になる面があるのは事実です。

北海道の経済は、こうした地理上のハンディを最小化しつつ、先にお話した強みを最大化する挑戦を積み重ねながら発展してきた経緯があり、現在も、同様のチャレンジが形を変えて続けられていると認識しています。

人口減少と当地の経済の関係に関しては、私どもが

本年5月に特別調査として発表していますが、北海道全体のGDPの推移をみると、最近の15年間は、人口減少が進む中でも成長トレンドが続いてきました。

地域別の統計をみても、人口減の進む道内地方圏でも経済が伸びてきた姿が見て取れます。このような地域で経済が成長してきた背景としては、第一次産業などに對する道外の需要が伸びる中、労働供給力の低下を機械投資や合理化でカバーし、そうした需要の伸びにこたえてきた面が大きいと考えられます。

北海道経済にとって人口減少への対応は重要な課題です。これまで積み重ねてきた経験も生かしながら、変化にこたえた新たな工夫を継続していくことが引き続き重要と思われるます。

——そうした中、千歳市の半導体製造「ラピダス」の進出やGX、データセン

ターの誘致など、これまでにない動きもできました。

中山 これらのプロジェクトも、当地の強みを生かしながら、地理的なハンデイを超えようとしてきた歴史の一環と位置づけられるとみています。

——どのような点でしょうか。

中山 ラピダスが開発に取り組んでいるとされる先端半導体に関しては、一つのサイズが非常に微細であるため、大量に生産しても輸送コストは相対的に低く抑えることができる可能性があります。

加えて、ラピダスを巡る事業環境を考えると、当面の間は、海外向けの輸

出が中心となりそうです。そうした場合、海外に輸送するとなると、当地の地理的なハンデイは相対的に薄まるのではないかと考えられます。

また、再生エネルギーに関して、作られる電力を道外に送り込むためには多額のコストをかけ送電網などのインフラを整備する必要があり、その分だけ電力料金単価が高む可能性が指摘されています。

この点に関して、当地にデータセンターを建設し、再生電力を利用したデータ生成・処理を当地で行うことで、電力（ワット）を輸送コストの相対的に低いデータ（ビット）に変換し

て道外に移出するスキームが注目されています（ワット・ビット構想）。

再生電力を道外に直接送り込む仕組みの構築が今後重要になってくることは言うまでもありませんが、併せて、生成された電力を利用して輸送コストの安い製品やサービスを当地で生産できる仕組みを広げていくことができれば、北海道の産業の足腰がより強くなっているのではないかと思います。

経済実態を把握し 物価安定に繋げる

——北海道活性化に向けて日銀の役割とは。

中山 「物価の安定」の実現は、日銀の重要な使命です。モノの価格が極端に上下に変動する事態になると、企業の経営活動や我々一人ひとりの消費活動において先行きの見通しを立て

ることが困難になり、安定性が大きく損なわれることになります。

また、先行きの見通しがこのように不確実な環境では、投資をはじめとする経済面での前向きなチャレンジに踏み切ることも難しくなります。

日銀は、世の中がそのような状況に陥ることのないよう、金融市場における日々の金利調節を通じて金融政策を行っています。

こうした政策を適切に行うためには、経済実態の適切な把握が必要です。この点、統計データを眺めているだけでは、経済の本当の姿を的確に把握することはできません。企業をはじめさまざまな方々と直接話をし、経営の現状や景況の先行き見通しなどを膝詰めで伺っていくことが重要です。

日銀札幌支店では、こうしたヒアリング調査を中心に、道内経済の実態把握を

日々行っています。皆さんには私どものヒアリング調査などへの対応でお手数をおかけすることがありますが、その趣旨をご理解頂けると幸いです。

加えて、地元の皆さんの経済活動を支える公共インフラとしての役割を果たしていくことも、経済調査と同様に重要です。例えば、現金流通の要として、道内で使用される紙幣や硬貨を地元金融機関に安定的に払い出していくことは、日銀札幌支店の最も重要な仕事の一つです。

近年はキャッシュレス化が進んでいますが、それでも、現金へのニーズは引き続き高い水準で推移しています。

日銀がこうした仕事を行っていることは世の中に余り認識されていないのですが、意外と皆さんの身近に日銀があることを知って頂けると嬉しいですよ（笑）

